

日本学術振興会
プロセスシステム工学第143委員会
平成21年度 第2回研究会議事録

1. 日 時： 平成21年10月9日（金）13：05～10月10日（土）12：00

2. 場 所： 大阪 ホテルコスモスクエア国際交流センター
（大阪市住之江区南港北1-7-50）

3. 出席者：50名（順不同，敬称略）

委員長：長谷部伸治（京都大学）

委 員：轡 義則（住友化学），山田 明（三井化学），小西信彰（代理：末吉一雄，横河電機），鈴木剛（東洋エンジニアリング），高田晴夫（三菱化学エンジニアリング），柘植義文（九州大学），野田 賢（奈良先端科学技術大学院大学），橋本芳宏（名古屋工業大学），船津公人（東京大学），山下善之（東京農工大学），加納 学（京都大学），木村直樹（九州大学），栗本英和（名古屋大学），関 宏也（東京工業大学），殿村 修（京都大学），武田和宏（静岡大学），菊池康紀（東京大学），黒岡武俊（富山大学），橋爪 進（名古屋大学），濱口孝司（名古屋工業大学），松本秀行（東京工業大学），村上佳広（関西大学），山本 透（広島大学），伊藤利昭，薄 豊文（代理：大宮司理晴，ジャパンエナジー），川村継夫（オメガシミュレーション），馬場一嘉（ダイセル化学工業），大田原健太郎（クレハエンジニアリング），坂本英幸（横河電機），重政 隆（東芝三菱電機産業システム），西野由高（代理：鈴木勝幸，日立製作所），樋口文孝（出光興産），藤井孝義（代理：矢野尚貴，日揮），小崎恭寿男（日揮），滝波明敏（昭和電工），竹田浩伸（三菱化学），濱村光利（代理：栃原平祐，東洋エンジニアリング），小松規秀（カネカ），布野俊彦（日立ハイテクトレーディング），丸山 亨（新日本石油精製），内山正生（代理：村田 尚，東洋エンジニアリング），西澤 淳（代理：真子秀樹，三菱化学エンジニアリング），矢羽田喜彦（代理：村上博文，三井化学）

委員以外の出席者：十河信二（三井化学），高井 努（山武），井上寿人（大阪ガス），金子弘昌（東京大学），田中峰夫（住友化学），横山克己（オメガシミュレーション）

4. 研究会

テーマ：プラント運転支援技術への期待と技術課題～新しいワークショップの設立に向けて～

（司会：野田 賢 委員）

【1日目】 10月9日（金）13:05～

0) 研究会の趣旨説明，スケジュール説明

1) グループテーマ説明

Gr.1 ソフトセンサー予測精度の保証とモデルの長期的な使用

進行・まとめ役：船津公人 委員，十河信二 氏

Gr.2 プラント異常診断技術

進行・まとめ役：柘植義文 委員，鈴木 剛 委員

Gr.3 プラント運転操作知識の獲得

進行・まとめ役：山下善之 委員，高田晴夫 委員

Gr.4 プラントオペレータの習熟度評価技術

進行・まとめ役：黒岡武俊 委員，轡 義則 委員

Gr.5 ミラープラント

進行・まとめ役：橋本芳宏 委員，山田 明 委員

Gr.6 プラントヒューマンインターフェース

進行・まとめ役：野田 賢 委員，高井 努 氏

(司会：高田晴夫 委員)

2) 「化学産業の将来と次世代生産システム」

《講演者》 伊藤利昭 委員 (資料#1)

【概要】 化学産業のあゆみと生産技術，米・欧・日の化学産業の技術戦略について紹介された後，次世代生産システムの課題について述べられた。具体的には，労働集約型産業から装置産業への脱皮，大型化・複合化に対する技術導入，環境・安全・省資源・省エネルギーを目指した既存技術の見直し，情報化による生産システム化，新しい産業競争力の創出，といったことが PSE の大きな役割として示された。

第2部 グループディスカッション 15:00～18:00, 20:00～22:00

Gr.1～Gr.6 の6つに分かれて議論し，課題の抽出・整理を行った。

【2日目】 10月10日(土) 9:00～

前日に引き続いて，グループディスカッションを行った。

その後，各グループからの報告がなされた。報告内容については別紙(1)～(6)の通りである。

報告内容に基づいて，今後のWSの立ち上げについて検討されることとなった。

配布資料：

#1：化学産業の将来と次世代生産システム【伊藤委員】

以上